米沢興譲館同窓会会報

第33号
発行／平成16年8月1日
米澤興譲館同窓会
会報　編集委員会

当会報の題字は、第19号から奥山徹石氏（昭和28年卒）の揮毫によるものです。

歴史の風と未来への光を

平成十六年度同窓会総会・懇親会
実行委員長　栗山考司
（昭和四十四年卒）

今年は、藩学創設三百年を超えて、なお、大いなる歴史を刻み続ける我が母校興譲館に、平成生まれの新入生を迎え、その歴史に新たな頁を綴ることとなりました。

本年の同窓会スローガンは、平成元年卒業の実行委員からの提案により、「歴史の風と未来への光を」と致し、私達他四学年（昭和四十八、五十三、五十九、平成元）の実行委員が同窓会総会並びに大懇親会の準備を進めております。

当日は、数多くの同窓生にご来場賜り、旧職員の先生方や同窓の諸兄と当時の懐旧談に花を咲かせていただくとともに、そのふれあいの中から歴史の風を感じ、併せて興譲館同窓会の未来への光を灯していただきたいと思っております。

皆様には会員券の購入はもとより、同窓会当日の諸行事についても、絶大なるご協力をお願い申し上げます。

なお、九月十九日（日）記念式典後の記念講演会は新藤一晴君（昭和四十四年卒・（財）日本サッカー協会事業部参事）が、自身のサッカー人生で係わって来た国内外のことなどについて講演することとなっております。

ぜひ同窓生の皆様にもご拝聴頂きますと共に、午後六時からの懇親会への多数のご出席を重ねてご案内申し上げます。

皆様のご支援に感謝して

同窓会長　高野　譲

母校の創立記念日を迎え、同窓生の皆様には益々ご健勝にてご活躍のことと存じます。

川野前会長の後を受け、会長就任以来一年が過ぎようとしています。この間、会員の皆様から陰に陽に力強いご支援を戴き何とか務めて参りました。今後ともよろしくお願い申しあげます。

さて、藩学創設三百年記念講堂につきましては、現在在校生が様々な場面で活用し、その恩恵を受けております。建設に当って皆様から多大のご寄付を頂き、先年完成を見たのですが、その際ご存じのように多額の借金をしております。この返済は平成十九年三月を目途としておりましたが、その後の皆様のご協力により、予定を早めてこの三月には全額完済することができました。ここに改めて厚く御礼申しあげます。

今まで延び延びになっていた最終決算報告に寄付者一覧を付して、総会にお示しすることになります。尚、高額寄付の方々には感謝状をさしあげ、その名を同窓会室の一角に掲げることにいたしました。

近年は興譲館卒業生にも女性の数がふえ、各方面での活躍が目立っていますが、今回のアテネオリンピックに、その一人がみごと出場を果たしました。平成十年卒の原田めぐみさんで、フェンシング個人エペの部の代表に選ばれました。在学中から華々しい活躍がありましたが、卒業後も研鑽を続け、晴れの五輪代表の座を獲得された彼女に、同窓生一同心からエールを送りたいと存じます。

同窓会も、学年ごとの集いはいよいよ盛んに行われておりますし、支部活動も軌道に乗っております。この二、三年は多くの支部で支部長さんの交代があり、若返りが図られておりますが、今後とも一層充実した活動を期待申しあげます。

米沢興譲館同窓会

平成十六年度総会・大懇親会ご案内

一、日　時　平成十六年　九月十九日（日曜日）

一、会　場　グランドホクヨウ（市内金池二丁目）

一、日　程　①総　会　午後四時三〇分
　　②懇親会　午後六時から

平成十六年度米沢興譲館同窓会会長　高野　譲

平成十六年度同窓会・懇親会実行委員長　栗山考司（昭和四十四年卒）

白布マラソンのご案内

今年も、同窓会・体育文化後援会主催の「秋の白布街道を走ろう」を実施します。

・期　　日　九月十八日（土）

・申 込 先　米沢市徳町二二一九―一八　土澤幸雄　宛

・申込期日　八月末日迄　☎0238（22）6934

個人で、クラブ有志で、あるいは学年での参加を期待しています。白布マラソンの経験のない学年も大歓迎です。なお詳細は参加を希望なされる方々に連絡致します。

泉町付近を走る
石井さん（昭34卒）

日ごろ思うこと

校長　五十嵐　京子

社会の大きな変化を受けて、高校教育も「公開と評価」や「個性と多様化」などをキーワードに、平成十四年度より完全学校週五日制、十五年度より新学習指導要領実施、学校評議員制導入など次々と改革が進められております。

本校もそのただ中にありますが、ともすると新規を好み、流行に流されかねないような風潮のなかにあって、不易と流行を見極めながら、次代を担う有為な人材の育成に努めていくことの責務の重さを改めて強く感じております。

昨今「個性重視の教育」が叫ばれる一方で、現代は総じて厳しさを欠いたわがままな時代と言われています。確かに世の中は〝自由〟や〝個性〟が跳梁跋扈し、勝手気ままで自己中心的な言動が目立ちます。子供たちも自己主張はするが、他人の話を聞く態度や姿勢が弱かったり、豊かな社会のおかげで、したいことはたいてい他人に気兼ねすることもなくできるようになりましたが、反面、好き嫌いだけで必要なことをしない傾向もあり、それを〝個性〟と考え違いすることさえあります。こうした現象は、豊かな社会の産物であるとともに、教えるべき大人の責任にもよるのではと考えております。

故高田好胤薬師寺管主は「個性は訓練によって導き出されてくるのです。訓練のない個性は野生です。」と指摘し、「厳しさのない優しさは単なる甘さです。」と言っています。

また、日本国語教育学会顧問で今年九十八歳になる大村はまさんは、「戦後の教育で最大の失敗は教師が教えなくなったことだと、私はつくづく思っています。〈子供の個性・主体性を尊重する〉ということばが〈教える〉ことを背後に押しやっていったようです。」と述べています。実際、子供の個性・主体性尊重という美名の下に、〈教える〉ことをためらう傾向があるように思えてなりません。

「子を養いて教えざるは父の過なり。訓練の厳ならざるは師の惰りなり。」という中国の宋時代の歌があります。古い時代の歌ですが、現代に通用する極めて含蓄に富んだ教えだと感じております。教師は教え、導き、育てることがその不易なる務めであることを肝に銘じながら、よい個性を伸ばし、自律性・主体性を育てるために、生徒一人ひとりを大切にして、厳として指導にあたって参りたいと存じます。

同窓会の皆様には、日ごろのご支援に感謝するとともに、今後ともよろしくお願い申し上げる次第です。

米沢興譲館高等学校

創立記念式典・記念講演

一、日　時　平成十六年　九月十九日（日曜日）

一、会　場　米沢興譲館高校　記念講堂

一、日　程　①記念式典

②記念講演

講　師　新　藤　一　晴　氏

（昭和四十四年卒・㈶日本サッカー協会事業部参事）

＝同窓会のうごき＝

やっぱり同窓会はいい

曽根伸良（昭二五卒）

最近、どこの高校、大学でも、同窓会は難しい局面に立たされているようです。会合を開いても人は集まらない。会費も納入されない。必然的に財政的にもピンチになるというわけです。これは、同窓生であるという帰属意識がだんだん希薄になってきていることの結果だと人は言います。若い人たちほど、その傾向は強いとも言われます。

高校も、大学でさえも全入という時代になってきた今、同窓会には魅力がなくなって来たのでしょうか。人々は皆、出身の学校などには関係のないコスモポリタンになってしまったのでしょうか。

私は、高校を卒業してからもう五十余年になりますが、卒業した最初のころから、同級生に会うと学生時代にタイムスリップするのが楽しくて、それが同窓会の魅力でした。私共の年次（昭和二五年・新緑会）では、毎年総会を開いていますが、鬼籍に入る仲間が年とともに増えているにもかかわらず、いつも四十人前後は集まりますし、毎回誰かしら新しいメンバーが顔を出すようになりました。また、それぞれの居住地周辺で、同級生が定期的に集まっているというグループも幾つかあります。

鮭が遡上して母川に帰るように、鳥に帰巣本能があるように、人もまた、人生のあるポイントに、消し難い記憶が刻み込まれており、その時点に帰りたいと思うものなのでしょう。その大きなポイントがあの若き日の学生時代なのでしょう。同窓会は、その記憶をいつも蘇らせてくれます。やっぱり、同窓会はいいのです。

我々の支部の課題改善にむけて

東京支部長　月生田　建

本年七月三日午後四時より約百三十名の出席者を得て支部総会を開催しました。

曽根元校長先生の叙勲祝賀会と同日開催となりましたが、あえて相田英一副会長に御列席を賜り御祝辞を頂戴し、又五十嵐校長先生には祝賀会出席後、懇親会に駆けつけて戴き、恐縮すると同時に東京支部に対する御高配に感謝申し上げる次第です。

総会無事終了後、昭和二七年卒の小山重郎様に仙台から御足労願い、「沖縄ミバエ類はいかに根絶されたか」という大変興味深い演題で御講演戴き熱心に拝聴致しました。

懇親会は昭和三四年卒の諸君が運営を受け持ち、最年長の昭和十五年卒佐藤藤助氏の乾杯発声に始まり、五十嵐校長先生の御祝辞と近況御報告、米沢有為会東京支部長下條秦生様による入会呼びかけ、恒例の昭和五六年卒青柳陽子さんのジャズ熱唱を傾聴しました。

特に圧巻でしたのは興譲館の嚆矢となるアテネオリンピック出場選手原田めぐみ嬢を迎えて、『為せばなる為さねば…』と挨拶されたときは大喝采でした。

彼女に支部からお祝金と場内で集めた有志の浄財を差し上げ激励致しました。

毎年約千七百名に総会案内を発送し、百数十名の出席と「出席者数の停滞」が支部長年の課題ですが、吉田幹事長以下七名の副幹事長の献身的な活動で改善傾向にあることを御報告致します。

三一会

記念誌『出会い五十年』を発刊

小関　薫

わが学年も昨秋『出会い五十年』と名づけた記念誌を発刊した。A4判214ページ、200部印刷。文字どおり、西高に入学して五十年になったことを記念してのこと。既刊学年の鈴木仁先輩（24年卒）から「卒後五十年となると六十八歳、そうなると筆が重くなって、乗らないから早いほうがいいよ!!」とのアドバイスを受けて……。

三年前から予告準備にとりかかり、原稿集めから印刷ありがまで二年近くを要した。編集実行委員長に元讀賣新聞記者の石田裕吉君（宝塚市在住）を当て、実務は地元勢が担当した。

自慢は、現在百六十九人中百五人から原稿を寄せてもらったことだ。題材と字数は自由とした。概して高校時代の思い出を綴ったものが多かったが、谷口至良君などは「ラッキーでハッピーな男」と題して、生きざまを英文で八ページという強者もいた。恩師九人の先生からも玉稿をいただき紙面を飾っていただいた。

この事業の経費百五十万円は、長年かけて貯めた百万円と、このたびの協力金一人三千円で賄った。現物は全会員のほか国会、山形県立、米沢市立の各図書館、伝国の杜ライブラリー、母校図書室にもありますので、どうぞ。

三一会の『出会い五十年』、新緑会(25年卒)の『興譲館の青春』

自頼奨学財団にご支援を

財団法人「自頼奨学財団」は興譲館の大先輩我妻栄先生が文化勲章を受賞されたのを機に、母校の後輩生徒の育英奨学金を目的に、一、六〇〇万円を拠出されて設立されました。その後も、先生のご子息我妻堯先生をはじめ、この事業に賛同された本校ゆかりの方々からも心温まるご支援をいただいて参りました。

昭和四十一年の第一回から現在まで、約二八〇名の生徒がその恩恵を受け、卒業後は社会の有為な人材として活躍を続けております。

この事業は本校在学生への奨学金給与が主たるものですが、その経費は、基金からの果実（基本財産預金利子等）によって運用されています。

しかし、現今の低金利のため基金の果実が著しく減少し、我妻先生のご意志を生かし続けることが困難な状況になって参りました。

これまでも財団理事・評議員や多くの卒業生の方々からご支援をいただいてきましたが、運用財産も今年度をもって底をついてしまいます。次年度以降に向けて、我妻堯先生のご了解を得て、基本財産の一部を取り崩して運営する方向で、県教育委員会に申請しているところです。

このような時代にこの事業を継続していくためには、運用財産の拡充を図ることが必要であり、本奨学事業の趣旨にご賛同いただける方々にご支援をお願いすることになりました。つきましては、同窓生の皆様にも趣旨をご理解の上ご支援を賜りたく、お願い申しあげる次第です。

ご賛同いただける方は、本校内の事務局までご連絡ください。

事務局だより

・今年も栗山君達の学年を中心として企画された「ホーム　カミング　デイ」がやってくる。懐かしいあの顔、先輩、後輩の語らいが会場のあちこちでくりひろげられる。お互い青春との再会の日、楽しみに待ちたい。

・ある大学が十万人の同窓生にアンケートを実施したところ、返信は約五千通であったという。本校の同窓会費納入状況をみるにつけ、同窓会への関心が全国的にいまいちの感のする今日、月生田東京支部長さんのみならず他の支部長さんにとっても同じ課題といえましょう。特に本校の同窓会費は学年毎に納入となっておりますから、支部長さん同様、各学年の理事の任にあられる皆様のご苦労に感謝申しあげております。

・前記のような時期だからこそ学年団結のサンプルともいえる二学年、つい先日、瑞宝小綬章を受章された曽根前校長（新緑会）と三一会の小関薫氏の二人から寄稿して頂いた。各支部、各学年の更なる結束を期待。

・自頼奨学財団へのご支援もどうかよろしくおねがいします。

・写真を提供して下さった相馬写真館にも感謝しつつ。

（文責　遠藤）

平成14年度 同窓会会計決算書

(平成14年9月1日～平成15年8月31日)

収入の部

(単位：円)

項目	予算額	収入済額	増減	備考
繰越金	1,184,731	1,184,731	0	前年度繰越金
入会金	1,603,000	1,603,000	0	7,000円×229名
年会費	2,300,000	1,373,000	△ 927,000	
過年度会費	935,000	150,000	△ 785,000	39年・43年・47年
雑収入	269	17	△252	預金利子
計	6,023,000	4,310,748	△1,712,252	

決算額

収入済額 4,310,748円 － 支出済額 3,697,852円

＝ 残額 612,896円

(平成15年度会計へ繰越)

支出の部

(単位：円)

項目	予算額	支出済額	残額	備考
運営費	**1,720,000**	**1,515,854**	**204,146**	
会議費	120,000	52,430	67,570	常任理事会・事務局会
通信連絡費	100,000	14,230	85,770	切手・ハガキ
需用費	300,000	249,194	50,806	事務用品・慶弔・封筒
人件費	1,200,000	1,200,000	0	人件費会計へ繰出し
事業費	**2,000,000**	**1,181,998**	**818,002**	
一般事業費	1,400,000	620,336	779,664	各支部総会(旅費・お祝)・送料補助
卒業記念費	250,000	217,550	32,450	認印
表彰費	50,000	44,112	5,888	永年勤続者(3名)
会報費	300,000	300,000	0	第32号　7000部
予備費	**2,303,000**	**1,000,000**	**1,303,000**	
予備費	2,303,000	1,000,000	1,303,000	講堂建設資金借用償還金
計	6,023,000	3,697,852	2,325,148	

◎置賜地区県職員同窓会
幹事長　大海康一
連絡先　〒992-0012 米沢市金池東南置賜合同庁舎
☎0238 (24) 2311

◎高畠支部
支部長　登坂捷一
〒992-0351 東置賜郡高畠町高畠2152-23
☎0238 (52) 0017
副支部長　梅津伊兵衛・星　寛治
幹事長　鈴木征治
事務局長　連絡先　金田成康　高畠町役場内
☎0238 (52) 1111

◎赤湯支部
支部長　吉田堅治
副支部長　石岡忠一・佐藤有弘

◎宮内支部
支部長　佐藤　稔
副支部長　川合悌次郎・星　清一
幹事長　吉田文雄
監事　高橋正夫
連絡先　〒992-0472 南陽市宮内3010-10
吉田文雄　☎0238 (47) 2706

◎川西支部
支部長　遠藤忠志
〒992-0213 東置賜郡川西町尾長島1211
☎0238 (42) 4121
副支部長　鈴木　弘
監事　船山昭司・嶋津憲英
幹事長　猪狩文昭
事務局長　島貫啓一・後藤哲雄・大友勝治
連絡先　〒992-0121　東置賜郡川西町上小松
川西町役場　猪狩文昭　☎0238 (42) 2111

◎長井・西置賜支部
支部長　松下鈆三郎
副支部長　井上俊雄・芳賀康雄
幹事長　渡部秀一
事務局長　齋藤道郎

◎小国支部
支部長　高橋清人
副支部長　伊藤通芳・小林新太郎
事務局長　高橋健人

◇興譲館同窓会校内役員
理事　手塚宮雄・佐藤広明・石黒宏治
玉橋博幸
幹事　加藤真琴・神保健司・佐藤美枝子

平成15年度 同窓会会計予算書

（平成15年9月1日～平成16年8月31日）

収入の部

（単位：円）

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
繰越金	612,896	1,184,731	△571,835	前年度繰越金
入会金	1,498,000	1,603,000	△105,000	7,000円×214名
年会費	2,300,000	2,300,000	0	昭30年～平6まで5万円（40学年）昭29年～19年まで3万円（10学年）
過年度会費	927,000	935,000	△ 8,000	未納金(平成14年度)
雑収入	104	269	△ 165	預金利子
計	5,338,000	6,023,000	△685,000	

支出の部

（単位：円）

項目	本年度予算額	前年度予算額	増減	備考
運営費	**1,700,000**	**1,720,000**	**△ 20,000**	
会議費	100,000	120,000	△ 20,000	理事会等
通信連絡費	100,000	100,000	0	郵便切手
需用費	300,000	300,000	0	慶弔・事務用品
人件費	1,200,000	1,200,000	0	人件費等
事業費	**1,530,000**	**2,000,000**	**△470,000**	
一般事業費	1,000,000	1,400,000	△400,000	各支部総会（旅費・お祝い）
卒業記念費	210,000	250,000	△ 40,000	記念品代
表彰費	20,000	50,000	△ 30,000	永年勤続者(1名)
会報費	300,000	300,000	0	印刷代
予備費	**2,108,000**	**2,303,000**	**△195,000**	
予備費	2,108,000	2,303,000	△195,000	
計	5,338,000	6,023,000	△685,000	

米沢興譲館同窓会支部役員

◎米沢支部
支部長　小関　薫
副支部長　菅野武巳・大友恒則
監　事　安達治雄・安田道隆
幹事長　相田修一
事務局長　栗林雄二
連絡先　〒992-1443 米沢市大字笹野1101
米沢興譲館高等学校　☎0238（38）4741

◎東京支部
支部長　月生田　健
副支部長　飯沼俊男・神野民夫
幹事長　吉田仁志
副幹事長　板垣昭次・五雲寺卓・川井陽一
宮坂孝夫・本川　裕・大浦顕逸
横山彰人
連絡先　〒120-0002 東京都足立区中川4-8-11-101
㈱ハナマル（吉田仁志）
☎03（3606）6101（ＦＡＸ共）

◎関西支部
支部長　遠藤昌雄
副支部長　川合雄介・石田裕佶
監事長　西村悦子
事務局　連絡先　勝見哲朗
〒537-0011 大阪市東成区東今里2-15-30
サン美術印刷㈱　☎06（6976）0231

◎宮城支部
支部長　中條　仁
副支部長　芳賀滋弥・和田美知子
幹　事　林一郎・小林令児・矢尾板範子
香坂昌紀・大武清夫・小関隆久
金子謙一・高木三男・猪俣良市
御供政敏・森下和夫・熊坂　仁
安部雅人
連絡先　〒983-0862 仙台市宮城野区二十人町6
☎022（291）5372（中條　仁）

◎山形支部
支部長　二瓶　功
副支部長　長尾良彦・堤　孝雄・後藤　寛
幹　事　板垣　寛・花輪完治
監　事　安藤隆夫・岩沼　甫

◎県庁教育委員会職員同窓会
会　長　鈴木正道
副会長　伊藤和夫
幹事長　佐原伸児
幹事長代理　川崎正則

母校だより

東北大会に優勝して

オリンピック選手を生んだフェンシング部

フェンシング部顧問　小原秀樹

六月二十六日、東北高校フェンシング選手権大会は岩手県一関市にておこなわれた。今年の男子のメンバーは近年にない五人中三人が小学生や中学生からの経験者という恵まれたメンバーでつくることができた。しかし、最近では東北全部の県でスポーツ少年団等が盛んにおこなわれ、また青森県の今別高校のように中高一貫で指導している部もあるため昔ほど簡単には勝てないのが現実である。

春に開催された東北選抜大会はリーグ戦方式でおこなわれ秋田の合川高校、青森の今別高校に敗れ三位という結果に終わっていたので、それ以上を目標に考えていた。

東北大会は選抜予選と違いトーナメント戦によっておこなわれることと、参加チームが各県の上位二校ということもあり東北選抜で過去三回優勝した本校男子チームも獲ったことのないタイトルであった。一回戦はシードで初戦は青森県二位の田名部高校が相手となった。危なげなく5対0で下し、翌日の準決勝は宮城県の一位である仙台南高校となった。仙台南高校の監督は本校を平成六年卒で高校時代、国体優勝やインターハイ準優勝など活躍してくれた渡部敦監督で教え子監督との対決となった。

今年に入ってから遠征に行き来し手の内がお互いに解っている相手である。練習試合の時は負けることもあったが勝負所を取れれば十分に勝てると思っていた。試合の内容は競る場面もあったが5対2で下し決勝へ駒を進めた。

決勝の相手は、今別高校である。本校は私が顧問になってから三回決勝まで行ったが、いずれも敗れ今回が四度目のチャレンジである。「ここで一発勝ったらみんなの先輩が出来なかった優勝だ。絶対獲ろう。」と試合直前に選手達に檄を飛ばし試合は始まった。途中、追いつかれる場面もあったが、たえずリードを許さず先行し終わってみると5対3で見事、男子初優勝を飾った。出場した選手のそれぞれの場面でのつながりある活躍の結果だと思う。

最後にアテネオリンピックに出場する平成十年卒の原田めぐみ選手にふれたいと思う。

四月初旬携帯電話に一通のメールが入った。内容は「アテネです！」たった一言だったが一日で出場を決めたことがわかった。

彼女は、高校時代より努力、センス、そしてスポーツ選手としての前向きで明るい性格でインターハイ四位や東北大会優勝など活躍してくれた。

この選手はインターハイでは四位だったがこのまま続けていけば、将来ナショナルチームで活躍したり、全日本チャンピオンくらいにはなる器だという感触はあった。しかし、オリンピックに出場するとは、難しさを知っているだけにとても嬉しく思う。

アテネでは、日本選手団の一員として、また興譲館高校卒の思いを胸に、思いっきりプレーしてもらいたいと思う。ガンバレめぐみ！